

多様な人々による公共施設の設備利用の実態

The actual situation of the facilities use of the public accommodation by a variety of people

○土屋 貴子¹, 八藤後 猛²Takako Tsuchiya¹, Takeshi Yatogo²

As a result of preliminary investigation, there were many people who replied it when a wheelchair had top priority. There was the person who replied it when a crutch user and the elderly person using the supporting stick had top priority. I understood that I could attack the turn given priority. I judged that there was the validity of the investigation method. However, the method that order analyzes the same thing into is a problem. In addition, the picture which I used for a questionnaire had the part which it was hard to judge. I improve the above-mentioned thing for a subsequent investigation.

1. 研究背景

バリアフリーの普及により、今日では障害のあるなしにかかわらず誰もが出かけられるようになっていく。とくにここ数年で顕著なのが、ベビーカーを利用した外出である。電車利用において、利用マナーの問題もあがっている。そういう新しい問題が起きているということは、人々の「誰もが出かけられること」に対する意識の変化が起こっていると考えられる。ベビーカーの問題について鉄道事業者 30 社が 2008 年末からベビーカーでの電車利用に関するキャンペーンを行っているが、利用においては利用者同士の合意形成が必要であるとして、安全を第一とする事業者側も利用者に対して強く提言できない現状がある。

2. 研究目的

事業者と利用者に対して、エレベーターやトイレなど公共設備において、誰を優先すると考えているかの意識調査、また利用方法についての調査を行う。調査結果をもとに事業者から利用者への利用方法提言の根拠、及びこれからのまちづくりや建築計画にむけて、その改善点の考察を目的とする。

3. バリアフリー教室への参加及び文献調査結果

3-1. 子育て・子育てバリアフリー教室

Table 1. バリアフリー教室の概要

主催	日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育てまちづくり特別研究委員会
開催日	2011年2月19日
会場	東京大学(文京区)
内容	①子供連れで公共交通を利用して外出する際のバリア体験を通して、子供連れで外出しやすい交通環境はどのようなものか考える ②行政、研究の立場から、子供連れでの公共交通利用について現状と課題を議論

②であった、有識者、参加者、行政の話の次に示す。

谷口綾子(筑波大学大学院)

- ・公共交通のバリアフリー化の推進は、駅でのベビーカー利用を「当然の権利」とし、自分たちが行くところすべてバリアフリー化することが「行政の義務」とする考えを生む。それは、体の不自由な人の自主性低減、行政依存だけでなく、周囲が手助けしなくなるという自主性低減、行政依存につながるおそれがある。

西本由紀子(神戸女子大学家政学部)

- ・ベビーカーが気軽に外出しやすい環境がつけられてきているが、いまだ不便な点が多く、周囲の理解、手助けが少ない。反面、ベビーカー利用者のマナーの悪さが問題となっている。
- ・子育て世代が我慢するのではなく、自由に快適に外出できる子育てを応援する社会への変化が求められている。

参加者の声

- ・海外ではみんなの意識が子連れに優しい

東京都交通局の方

- ・利用についてのルールを作るには、利用者同士の合意形成が必要であり、むしろそれができればいろんなことがスムーズに進む。

共通しているのは社会全体で意識改善をする必要があるということであった。

3-2. 文献調査結果

3-2-1. ベビーカーの利用の問題について

(引用: 日本経済新聞 2010年8月23日 朝刊)

- ・公共施設、交通機関、商業施設などでの明確な共通ルールは無い

- 西武池袋本店では、エレベーター13 基のうち車椅子、ベビーカー専用1 基、優先3 基について説明役の乗務員、係員を配置。「優先なのに誰も降りない」「専用なのにベビーカーが乗れない」という客の声が途切れないため。

3-2-2. 海外と日本の子育てのしやすさの比較
(引用:「海外で普及している子育て製品・手法に関する調査及びそれについての国内の潜在的ニーズに関する意識調査」内閣府 2009 年)

- 海外のほうが「赤ちゃんや子連れに優しい社会」
海外での子育て経験者の多くが、海外では外出時における周囲の人による移動手伝い、妊婦や赤ちゃんへの「声掛け」や「温かいまなざし」などがあり、その結果「子育てが楽しい」と感じている。
- 公共交通機関内のベビーカー専用スペースやバリアフリー化、小さな子どもでも安心して遊べる公園の設計など、「子育てに配慮した社会インフラ・公共空間の整備」を望む声強い。
- 「心のバリアフリー」の推進
今後、我が国の子育てに関する国民レベルでの意識改革が不可欠である。そのために「子育てに優しい社会」への国民運動の展開が望まれる。単なるスローガンにとどまらず、公共空間での子育て支援スペースの整備などハード面での施策との一体化が必要。

4. 予備調査結果

4-1. 予備調査内容

調査目的：調査方法の妥当性の確認

調査対象：学生 14 人

調査方法：イラストを用いたアンケート調査



上図の 10 属性のうち、2 属性をエレベーターの前に並べどちらが優先されると考えるか、全 45 通りについてアンケート調査を行った(例 1, 2)。属性については回答者に見た目で判断してもらった。結果を以下に示す。



例 1



例 2

4-2. 予備調査結果

Table 2 を見ると、車いすの人が最も優先されると答えた人が多く、他には松葉杖をついている人、杖をついた高齢者であった。また、自分自身が最も優先されないと答えた人が多く、他には子ども、大きな荷物を持った人であった。順位が 1 から 10 まできれいに付けられたのは回答者 10 人中 6 人であった。残りの 8 人については順位が同じのものがあつた。

Table 2. 回答者それぞれの優先順位の結果

No.	車いす	松葉杖	ベビーカー	妊婦	高齢者(杖)	大きな荷物	高齢者	子連れ	あなた	子ども
No.1	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
No.2	車いす	ベビーカー	高齢者(杖)	松葉杖	大きな荷物	子連れ	高齢者	子ども	妊婦	あなた
No.3	高齢者(杖)	松葉杖	車いす	ベビーカー	高齢者	子ども	子連れ	妊婦	大きな荷物	あなた
No.4	松葉杖	車いす	ベビーカー	高齢者(杖)	大きな荷物	子連れ	高齢者	子ども	妊婦	あなた
No.5	車いす	松葉杖	高齢者(杖)	ベビーカー	妊婦	大きな荷物	子連れ	高齢者	子ども	あなた
No.6	松葉杖	高齢者(杖)	車いす	ベビーカー	子連れ	妊婦	大きな荷物	高齢者	子ども	あなた
No.7	松葉杖	車いす	高齢者(杖)	ベビーカー	妊婦	大きな荷物	子ども	子連れ	あなた	高齢者
No.8	車いす	松葉杖	高齢者(杖)	ベビーカー	大きな荷物	妊婦	子連れ	高齢者	あなた	子ども
No.9	車いす	松葉杖	ベビーカー	高齢者(杖)	あなた	大きな荷物	子連れ	高齢者	妊婦	子ども
No.10	高齢者(杖)	子ども	松葉杖	妊婦	車いす	ベビーカー	あなた	高齢者	大きな荷物	子ども
No.11	車いす	高齢者(杖)	松葉杖	ベビーカー	大きな荷物	子連れ	高齢者	子ども	あなた	妊婦
No.12	車いす	高齢者(杖)	松葉杖	妊婦	ベビーカー	子連れ	大きな荷物	子ども	高齢者	あなた
No.13	車いす	松葉杖	ベビーカー	高齢者(杖)	大きな荷物	子連れ	高齢者	妊婦	子ども	あなた
No.14	車いす	松葉杖	ベビーカー	高齢者(杖)	子連れ	妊婦	あなた	高齢者	大きな荷物	子ども

4-3. 予備調査の考察

この調査方法で順位がつけられることがわかり、予備調査の目的としてあげていた調査方法の妥当性については検証された。

5. 今後の調査

事業者、利用者に対してアンケート調査を行う。事業者側と利用者側の相違点、また利用者の属性による相違点などを考察し、具体的な建築計画、まちづくりへの提案を行う。

結果から得られることは、事業者側と利用者側には優先順位に関して大幅な相違点はないと考える。利用者同士では、特定の属性に関して優先順位に相違があり、その相違点が利用者同士の合意形成に重要なものとなり、エレベーターの性能、設置台数など具体的な建築計画に関わってくると考える。

【参考文献】

- 谷口綾子「子育て環境の変化と意識の変化」 子育て・子育てバリアフリー教室講演資料 2011 年
- 西本由紀子「子連れ移動の現状～公共交通機関におけるベビーカーの利用から～」 子育て・子育てバリアフリー教室講演資料 2011 年
- 日本経済新聞「ベビーカーで電車、3 割が「迷惑」大型化で摩擦増加」 日本経済新聞 朝刊 2010 年
- 内閣府政策統括官「海外で普及している子育て製品・手法に関する調査及びそれについての国内の潜在的ニーズに関する意識調査」 内閣府 2009 年